

# ～図書館だより～

R7年2月号

栗山誉礼先生のお薦め本

## 『科学史ひらめき図鑑』



世界を変えた科学者 70 人のブレイクスルー』

杉山滋郎監修 スペースタイム著 ナツメ社 2019年初版

「えっ、プラスチックって電気を通すの!？」

こう聞かれたら、多くの人が「そんなわけない!」と答えるでしょう。でも、実は「部分的にそう」なんです。

なぜなら、日本人が電気を通すプラスチックを開発したからです!

この発見のきっかけは、なんと“うっかりミス”でした。

化学者の白川英樹博士の研究室で、ある学生がプラスチックを作っていました。そのときに薬品の量を1,000倍も間違えてしまったんです! でも、その結果、生まれたのは…まるで金属みたいにキラキラ光る不思議なプラスチックでした。

この偶然の発見がきっかけで改良が進み、今ではスマートフォンのタッチパネルやバッテリーに使われているなど、私たちの生活に欠かせない技術になっています。

科学の世界では、「失敗」や「挑戦」、そして思いがけない「ひらめき」から、

新しい発明が生まれることがよくあります。

だからこそ、みなさんも「ミス=ダメなこと」なんて思わないでください!

何かを間違えたときこそ、新しい発見のチャンスかもしれないですよ。



## ✿ TV ドラマの原作小説 ✿



### 『リラの花咲くけものみち』 藤岡陽子

光文社

岸本聡里（さとり）は幼くして母を失い、父が再婚してからまともに世話をしてもらえず学校にも行けませんでした。幸い祖母のチドリにひきとられて成長した聡里は、北海道の大学に入学します。チドリに頼りきってきた聡里は人づきあいが得意ではありません。同級生と同じ部屋に暮らすだけで不安な聡里ですが、獣医師をめざして成長してゆきます。

各章のタイトルに「ラベンダーの真意」「クリスマスローズの告白」「ガーベラの願い」など花の名前が入っていて、最終章のタイトルが「リラの花咲くけものみち」です。

### 『バニラな毎日』 賀十つばさ

幻冬舎

パティシエの白井は5年前洋菓子店を開きましたが赤字で閉店。そのとき彼女の前に現れたのは料理研究家の佐渡谷真奈美。佐渡谷は白井に、閉店した店を貸してほしいと言います。生徒が作りたのお菓子を作るマンツーマンのお菓子教室をやるためです。佐渡谷は「かなりおかしなオバさん」と白井は確信しますが、手伝います。笑いあり恋あり、楽しくおかしな作品です。

各章のタイトルに「失敗は成功のタルトタタン」「謙虚で自由なモンブラン」など、お菓子の名前が入っていて、最終章のタイトルが「バニラな毎日」です。

続編『バニラなバカンス』もお薦めです。